

0、1、2歳児の言葉に着目して 常磐会短期大学付属いずみがおか園

0歳の事例

毎朝、歌っている『おはよう』のうたが大好きな H ちゃん（1歳2ヶ月）ピアノが鳴り出すと自然に身体が動き出し、手拍子もとっている。ある日、H ちゃんの声聴いていると「アッ アッ アッ」と大人の声を真似て、区切りをつけて発声していることに気づき驚いた。

ことばを聞き取り、それを自分のことばにしようとしている



1歳の事例



あひるぐみの中でも一番おしゃべりなAちゃんとMちゃん。一緒に手遊びをしていた。そのとき、Aちゃんが何かを言ったがどうしても保育士は聞き取れなかった。Mちゃんに「何て言ったか教えて？」と言うと「大きなおにぎりだよ」とすぐに教えてくれた。大人から見て何を言っているかわからなくても、子ども同士では、きちんと伝わっているんだと、つくづく感心した場面だった。

2歳の事例

パチパチマン体操

プ - ル遊び前、年長組に「パチパチマン体操」を覚えてもらう。まだ、3回ほどしか体操をしていないが、「パチパチマンの登場だぁ〜」の歌いだしがとてもインパクトがあったようで、リズムと歌詞がずっと入ってきたようだ。体操以外の時、好きな遊びの時でも「パチパチマンの登場だぁ〜」と口ずさむ子どもたちがたくさん見られた。おもちゃの片づけの時、「お片づけマンの登場だぁ〜」…給食の時「パクパクマンの登場だぁ〜」など歌詞を変えて楽しんでいる。おもちゃの取り合いのトラブル時など「仲良しマンの登場だぁ〜」保育士が歌いだすと「ニコッと」笑って取り合いをやめる子どもたち。子どもたちにずっと入ってくるリズムと歌詞。たとえば「ピアノのCM」の曲を聴くと泣いていた子どもが泣き止む。掃除機・ドライヤーの音を聞くと新生児が泣き止むなどと同じなのだろうか…？



ことばの獲得をひとつ、取り上げても歳児別にこんなに段階が現れている。

0 歳児では、まだことばははっきりと表れないが、ことばからくるアクセントやリズムから獲得している。また、1 歳児になると、大人では把握できないことを子ども同士の中では通じ合っていることもある。もちろん、1 歳児でも、月齢で発達の差はあるのだが、事例では M 児は、月齢が高く A 児とよく遊ぶ仲良しであるということもあって、A 児のことばを把握しているのである。

2 歳児になると、楽しい歌から、替え歌まで登場させ、ことばの意味までも把握している。とにかく、低年齢児であっても人、ものとの出会いが科学する心と大きな関連があると考えられる。

みどころ

乳幼児期は様々なことに興味をもち、手を伸ばしたり触れたりそばまで行って見たりまねたりなどしながら、日々刻々と多くのことを獲得しています。0、1、2 歳児の 1 場面をこうして並べてみても、周囲の刺激から感じ取ったことに反応し、声や言葉で発達に応じた表現をする姿を捉えることができます。「感じ」て「反応」しそこからまた「感じ」という「科学する心」の働きによって、自分から進んで人や物にかかわって、言葉や表現を豊かにしています。